

平成 30 年度 箱根町教育方針

本教育方針は、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）第 17 条第 2 項の規定に基づく「教育振興基本計画」に位置付けるものである。

箱根町教育委員会

箱根町の教育に関する大綱

I. 計画期間

H30年度 ～ H32年度 3年間

II. 学校教育基本計画

- 1) 児童・生徒数減少に伴う学校の存続について
3小学校 1中学校は、児童・生徒数が減少しても統廃合せず現状維持を図ります。
- 2) 箱根教育の推進について
 - i 箱根教育の基本方針を下記のように定めます
先人からの文化・伝統・歴史を受け継ぎ、未来に大きな理想と明るい希望を持って、健康で豊かな生活を目指し、箱根の郷土を愛し、貢献できる人
 - ii 学校教育において4つの箱根教育推進の取り組みを行います。
 - ① 箱育・・・郷土箱根を知り、箱根を大切におもいう礎づくり
 - ② 知育・・・学習意欲を高め、自分の将来の夢を叶える土台づくり
 - ③ 徳育・・・豊かな人間性、社会性を育む、信頼される根っこづくり
 - ④ 体育・・・健全な生活習慣を身につけ、体力を高め、たくましい未来を拓く体力づくり

箱根教育推進の合言葉

『箱根を愛し かしこく やさしく たくましく』

- 3) 箱根教育4つの取り組みを推進するために
園・小・中学校一貫教育（分離型）を行います。

III. 生涯学習基本計画

- 1) 生涯学習の基本方針については、箱根教育の基本方針を受けて、下記のように定めます。
箱根を知り、箱根を語れる人づくりと輪作りのための環境整備を図ります。
- 2) 具体的な取り組み
 - i 地域ぐるみの健全育成活動を推進します
 - ii 文化・自然遺産の保護と活用にあたります。
 - iii 生涯学習施設の機能と運営の充実を図ります。

平成30年度 箱根町教育方針

I 教育の基本方針

- 1 園・小・中学校の一貫教育の積極的な推進を図る。
- 2 箱根教育を通し「箱根人の育成を図る教育」を共有重点目標とします。
- 3 はじめに

1) 学校統合から現在までの経緯

平成20年4月に、5小学校を3小学校に、3中学校を1中学校に統合しました。統合に際し、「①確かな学力を身につけさせる。」「②心身ともに健康で、意欲的に物事に挑戦できる子の育成を図っていく。」「③箱根を知り、箱根を語れる子の育成を図っていく。」「④心の教育の充実を図る。」「⑤特別支援教育の環境整備を図っていく。」「⑥教育環境（ハード面）の整備を計画的に行う。」「⑦通学支援・奨学金制度の継続維持を図っていく。」を統合後の教育基本方針とし、取り組んできました。

これら7つの教育基本方針を達成させるため、さらに21の計画を推進し、平成26年度までにすべての計画の整備を完了しました。

また、3小・1中学校の教育内容の系統性の柱を「箱根教育」に置き、地域教育をはじめ、箱根ミニマム、おもてなしの心等、5幼（保）・3小・1中学校の5園4校で一貫した教育を実践してきました。さらに、幼児教育の充実・小学校との連携を図るため、「幼稚園ミニマム」「スタートプログラム」「幼（保）・小交流プログラム」にも取り組んできましたが、その中で、校長・園長会議や幼（保）・小・中学校教員の教育課程研究会の組織は、幼（保）・小・中学校の連携の共通意識の醸成と連携強化を図るために大きな役割を果たしてきました。

平成27年4月、統廃合から箱根教育の成果を踏まえ、5園3小1中学校で園・小・中一貫教育（分離型）の試行を行いました。園・小・中一貫教育（分離型）を行うにあたっては、4園4校に12年間の系統性を明確にするため、町の教育方針を園・学校の教育目標の一体化を図り、『子どもの育ち』を各発達段階に明確にし、中学卒業までの教育課程の具現化を図りました。12年間の箱根教育を通しての「箱根人を育成する教育」を実践することにより、箱根教育の最終目標である『箱根の郷土を愛し、貢献できる人』の育成を図ってきました。

今後、「箱根人を育成する教育」を積極的に推進し、将来にわたり、人口減少、少子高齢化社会を迎えるにあたり、箱根の活性化への核となりうる人材の育成を図っていくことが求められています。

2) 園・小・中一貫教育＝共有と個性化＝について

学校教育においては、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、持てる能力を伸ばしていくことが教育の大きな役割です。しかしながら近年、家庭及び地域社会における子どもの社会性育成機能の低下や少子化の進展等、教育の諸課題が今後さらに顕在化することが予測されるとの報告が国より出されています。

当町においても、すでに子どもたちの社会性機能の低下や児童生徒の減少が顕在化し、教育活動に支障を来すことが起きています。さらに、箱根町は、約30年後には、人口が半減する試算も出ています。平成30年には現在の児童数より25名減少

すると予測される学校があり、当町では、これからの人口減に伴う少子化の予測を受け、平成27年度を「人口減少・少子化対策元年」と位置付け、取り組むことにしました。これらのことを受け、教育については、少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策として、園・小・中学校一貫教育を通し、「箱根人を育成する教育」へと変換を図っていきました。

「箱根人を育てる教育」の基盤となるものは、「心の教育」です。「人が人として生きていく」ノウハウをしっかりと身につけることであり、さらには、系統性を持った教育を行うことです。「今、行っている教育活動が、どのように将来生きてくるのか。」を見通して教育活動を行うことが「箱根人を育てる教育」の原点となります。

一例であります。幼（保）の3・4歳時での教育の力点としては、「生活習慣の基礎を造る指導」が重要視されますが、中学2・3年生では、「出口を保障する指導」に力点が置かれ、12年間の発達段階を考慮に入れた指導が必要となります。

具体的に例をあげてみると、幼（保）・小・中学校12年間を通し、「社会性や円滑な人間関係」を構築するための心のアイテムづくりとして「箱根ハートフルプログラムの導入」、小・中学校9年間を通した「特別支援教育のガイドラインづくり」、「発達段階を考慮した9年間の系統性をもった教科指導の在り方」、「地域に根ざしたフランチイズ方式の学校づくり」等を通し、小規模校のデメリットの克服を図り、さらには、「地域に根ざした学校づくり」を図っていくことを教育の方針としました。

以上のことから、園・小・中一貫教育のコンセプトを「共有と個性化」とし、各園・小・中学校が共通で行う教育活動を「共有」とし、各園・小・中学校の実態に応じ具体策を構築していくことを「個性化」としました。

分離型の園・小・中一貫教育の試行を含めて4年目に入ります。本年度はさらに教員交流を発展させるとともに、各学校の特色づくりを行い、箱根の学校であると同時に地域に根ざした特色ある学校づくりを積極的に推進していきます。

3) 平成29年度小・中一貫教育から見た学校の様子（共有と個性化）

【知育】

① 箱根ミニマム・チャレンジ

- 学校として一貫教育性のある取り組みの中で基礎・基本の定着の成果が授業での学習課題に向かう姿勢や発言等にも現われています。
- 「漢字を読み・書く」では、実積を上げています。

② 読書活動の推進

- 子ども図書館における取り組みをベースに、小・中一貫教育の観点から共通理解をしながら、各校の独自性が展開され、読書量から学力につながるなど着実に成果となって現われています。
- 玄関文庫は非常にインパクトがあり、本を手にとってみようという環境が整っています。
- 読書の時間に児童・生徒が集中して読書活動に取り組んでいます。
- 学習状況調査の「読書が好き」の児童が5割以上おり、全国平均より高い。日常の中で、読書活動が定着しています。

③ 学習内容の定着

- 学習面、生活面での細かい配慮と全教職員共通指導の徹底により、授業中の落ち着きと仲間意識等変容を感じます。
- よい授業提案をもとに教師同志が学び合う体制が整い、校内研究が充実しています。
- 学習規律が整っている。授業中意欲的な児童の姿が見られます。

【箱 育】

① 地域学習

- 地域で学んだことをプレゼンテーションソフト等活用して生徒個々に発表させる活動につながっています。
- 英語をツールとした外国人観光客へのインタビューを行っています。

【体 育】

① 体力向上アイテム作り

- 縦割班活動時に歩数計を活用しています。
- 発達段階にふさわしく、生徒主体の活動としてスポーツ大会の実施をしています。
- 縄跳び運動に取り組み、児童が意欲的に体力作りを行っています。

【徳 育】

① 箱根ハートフルプログラム

- 男女の仲が良く、あいさつもとってもよいです。
- あいさつや言葉づかい、清掃活動に力を入れるなど日常活動を通して心の育成を図っています。
- 実践3年目を迎え、かなり定着化してきました。自己肯定感の高まりとともに、気持ちの良いあいさつや清掃での取り組み方、更には友達同士の和と落ち着きを感じます。

② ほめるアイテム作り

- 教室環境や校舎内の環境整備に力を入れています。児童・生徒の定期的作品の掲示はもちろんのこと、道徳性を培う内容や自己肯定感をより高める掲示内容の工夫など、各学校の実態に応じて独自性を展開されています。
- 児童の良さを認め、その良さを保護者に伝えようとする取組をしています。

【特色ある学校づくり】

① 湯本小学校

- 玄関から教室へ児童の導線に沿って児童の作品を展示して、自然と友達の作品が目に入るようになっており、認め合える場となっている。明るい教育環境づくりが図られています。また、幼児学園の交流を含めた異学年交流を実施し思いやる気持ちが育っている。小規模校の良さを生かした教育を図っています。

② 箱根の森小学校

- 合唱や合奏指導に力を入れています。その背景には、箱根中学校の音楽教諭の派遣がかなり影響していると推察します。どの児童も自信を持って音楽活動に取り組み、楽しんでいる様子が見られ、表現の喜びを十分に味わうことができ、確かな成果が認められています。

③ 仙石原小学校

- シバザクラがきれいに咲き誇る様子は、児童の心を育てるよい環境作りが推進されています。校内に「仙小ギャラリー」を設け、児童の作品を互いに鑑賞しやすい環境作りができています。音楽では、年間8回の朝の音楽会を実施し、感じる心が育つ教育環境作りが図られています。

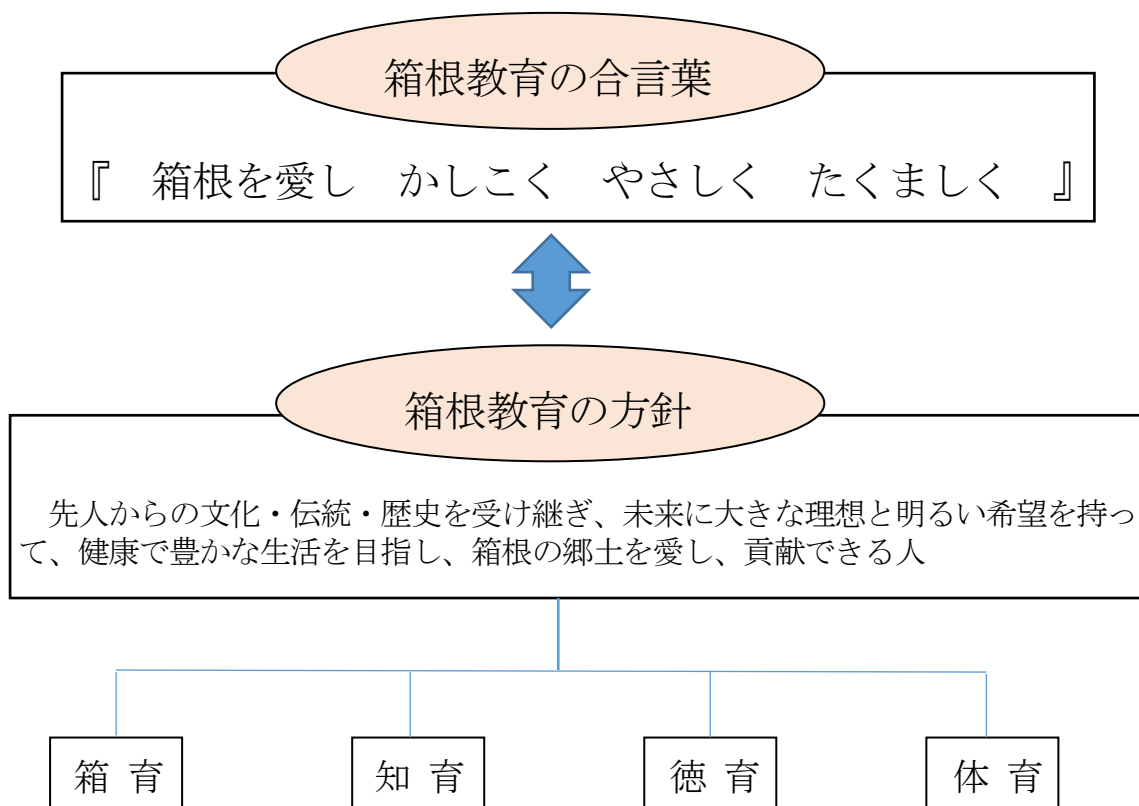
④ 箱根中学校

- 校外で外国人への英語インタビューが定着してきています。英語に慣れる機会を増やすための「ワールドカフェ（異学年英語交流）」の実施等により、臆することなく、外国人に接する態度につながっています。また、小学校の外国語活動には、「おもてなし英語」を組み込んだ授業実践への支援を行っています。

II 箱根教育方針（箱根で培う箱根の人）

【学校教育】

1 全園・校共有方針



2 共有重点取組

	共 有
箱 育	地域教育（観光学習）
知 育	箱根ミニマム・チャレンジ
	読書活動の推進
	学習内容の定着
徳 育	箱根ハートフルプログラム
	学校生活アンケート結果の活用
	ほめるアイテム作り
体 育	体力向上アイテム作り

3 プロジェクト

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① 園・小・中一貫教育推進運営委員会 | ⑥ ICT活用プロジェクト |
| ② 観光学習推進プロジェクト | ⑦ 子どものための図書推進委員会 |
| ③ 学習内容定着プロジェクト | ⑧ 幼・保・小連携推進委員会 |
| ④ 箱根英語教育推進プロジェクト | |
| ⑤ 給食献立研究プロジェクト | |

4 平成30年度 「園・小・中一貫教育」における“共有と個性化”

1) ① 園の共有の取り組み

項目	共有	園名	具体的な取り組み
か し こ く	<p>★自分の思ったことや考えたことを表現できる子ども</p> <p>★絵本が好きな子ども</p> <p>★地域の人や自然、文化に進んでかかわれる子ども</p>	湯幼	☆遊びの中や帰りの会など振り返りをする時間を確保し、自分の考えを発表できるように意識的に作り、サークル対話ができるように、育てていく。☆園バス文庫やきつつき号の貸出により、絵本を身近におき、毎日の読み聞かせやボランティア、小学生の読み聞かせの機会を充実する。☆地域コミュニティの拠点としてヒト、コト、モノへのかかわりを広げていく。
		宮保	☆クラス活動や、帰りの会や行事の後等に自分の言葉で振り返りをする時間などを設け、思考力や表現力を育てていく。☆日々の担任による読み聞かせや、地域ボランティア等を活用し、読み聞かせ活動を充実させていく。また、図書コーナーの充実を図り、絵本への興味関心を高めていく。☆地域散策や地域行事等に積極的に参加し、かかわりを深めていく。
		仙幼	☆日々の生活の中で友だちの良い所を振り返る場を設定し、表現できる機会を設け、心を育てていく。☆毎日の読み聞かせや絵本の貸出の充実と啓発を行い、絵本への興味関心を高めていく。☆地域散策や地域行事に参加する機会を積極的に取り入れ、人とのかかわりを深めていく。
		箱幼	☆教師との応答的なかかわりを通して、安心した環境をつくり、自己発揮ができるように促していく。☆担任による日々の読み聞かせ、保護者や図書ボラによる読み聞かせ等、多様な読み聞かせの機会を充実させていく。☆外遊びや園外散歩の充実、地域行事に積極的に参加していく。
や さ し く	<p>★自分から進んであいさつができる子ども</p> <p>★相手を許したり、認めたりする子ども</p>	湯幼	☆町一斉のあいさつ運動では旗を掲げ、年長児中心に実施する。また、毎朝、明るくあいさつを教師と保護者が率先して励行していく。☆箱根ハートフルプログラムを活用しながら、日常的に褒める場面を意識して伝え、子ども同士折り合いがつけられるように心を耕していく。
		宮保	☆明るく心を込めて保育士から進んで挨拶をする。また月1回のあいさつ運動を実施する。☆日々の生活の中で、指導の必要な場面を見逃さずことりあげ、その大切さに気づかせていく。☆箱根ハートフルプログラムを実践し、豊かな心を育てていく。
		仙幼	☆保育教諭が進んであいさつを行う。また、園・小・中一貫あいさつ運動を年長児の教育活動に取り入れるとともに、他の園児や保護者、地域の方に啓発していく。☆箱根ハートフルプログラムを、日々の保育の中で活用し、友だちとうまくかかわる方法を深めていく機会を増やしていく。
		箱幼	☆日々の根気強い指導と教師から率先したあいさつを励行していく。また、町一斉のあいさつ運動の日を大切にしていく。☆箱根ハートフルプログラムを活用し、心を耕していく。また、実際の生活場面で、指導の必要な場面を見逃さずに声かけをし、価値の大切さに気づかせていく。
た く ま し く	<p>★健康によい習慣を身につけ、心も体も元気な子ども</p> <p>★進んで運動する子ども</p>	湯幼	☆生活リズムの推奨と共に、身近自立を促し、生活できるように指導していく。☆サーキット遊びを取り入れ運動遊びやダンスなどを経験していく。☆縄跳びや走るなど運動する楽しさを知り、目的をもって取り組めるようにする。
		宮保	☆早寝早起き朝ごはんの大切さを家庭に伝えると共に、健康で安全な園生活や規則正しい生活習慣が身につくように場面に応じて丁寧にかかわる。また、機会があるごとに食や体について興味関心が持てるようにしていく。☆日常的に戸外で活動し、身体を動かすことの楽しさを知らせる。また、縄跳びを継続し意識的に行うようにしていく。
		仙幼	☆見通しをもって健康で安全な生活習慣や態度が身に付くよう関わっていく。☆チャレンジする気持ちが育つように進んで走る、跳ぶ、押す、引っ張るなど全身を使って遊ぶことを楽しむ機会を作っていく。また遊びを通して自立心、競争心、道徳心や規範意識等を深める機会を設けていく。
		箱幼	☆家庭と連携しながら、個々の発達にあわせ、自分でやってみようとする意欲を育てていく。☆トラックを利用してのかけっこ、町全体で進めるなわとびを継続していく。また、自分から進んで楽しく体を動かせる環境を用意していく。

1) —② 園の個性化の取り組み

園 名	特色ある保育・教育等“個性化”
湯本幼児学園	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の生活の中で歌声が響く、明るい幼児学園をめざしていく。 ●子どもの経験をより豊かに、地域の教育力を活かしてかかわりを広げ、充実させていく。
宮城野保育園	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てサロンの開設に伴い地域の子育て支援の拠点なるように未就園児の活動の充実を図る。また、地域交流を大切にして色々な世代の人と関わりを持つ。 ●「体操の日」を定期的に行い、園外保育や散歩等で万歩計を活用して体力向上につなげる。
仙石原幼児学園	<ul style="list-style-type: none"> ●園児と小学生が触れ合える機会を充実させるために、交流について年間計画を定めるとともに、保護者にも啓発を図っていく。(スタートプログラムの充実) ●地域の人や老人福祉施設との交流をとおして、人とのかかわりを深める機会を設ける。 ●保護者・子どもにとって、心の居場所となるように子育て支援センターの機能を充実させる。育児の相談や子育て通信(ほのぼの)などを通して、保護者とのつながりを大事にし、安心して育児ができるよう支援していく。
箱根幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の行事、地域の歴史や文化に積極的に参加したり、触れたり、また、園を拠点とする子育てサークルの活動を支援したりして、園と地域が双方向でつながる、地域と共に歩む幼稚園をめざしていく。

2) — ①小・中学校の共有の取り組み

項目	共有項目	学校名	個性化の方向性
箱育	★地域教育	湯小	●地域の教育力（人・もの・こと）を活用した授業づくりの推進
		森小	●人材・環境・施設等、地域のリソースを最大限に活用したダイナミックな地域教育の展開 ●ICTを活用した地域教育の実践
		仙小	●地域のリソース（人材・施設・環境・スクールバス）を活用した観光学習の再構築 ●地域のよさを実感し発信する活動の工夫
		箱中	●地域・観光、英語をキーワードにした総合的な学習の時間の推進
知育	★箱根ミニマム・チャレンジ	湯小	●朝学習「はげみタイム」の効果的活用
		森小	●朝の時間を使った「箱根ミニマム・チャレンジ週間」の充実 ●反復練習過程における教材・教具の工夫
		仙小	●児童の主体的な「隙間時間ミニマム」の取組 ●児童の主体的な「隙間時間チャレンジ」の取組
		箱中	●箱根ミニマムやテスト等の効果的な活用
	★読書活動の推進	湯小	●読書環境の整備・図書袋の活用（図書室・学級文庫・玄関文庫・廊下の図書コーナー等） ●読み聞かせの充実（朝・給食配膳時） ●児童図書委員会主催の読書週間の実施
		森小	●ボランティアによる朝の読み聞かせ、級外職員による給食待ち時間の読み聞かせ等、読み聞かせの充実 ●「あじさい読書週間」「もみじ読書週間」における取組の工夫
		仙小	●ブックバッグを活用しての「隙間読書時間」の取組 ●校内の読書環境の整備と充実
		箱中	●本に親しめる環境づくり
	★学習内容の定着	湯小	●授業のユニバーサルデザイン化 ●少人数学習、ITによる個別指導の充実
		森小	●学び合いを大切にした学習過程の質的改善による「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくり ●朝の時間の活用、家庭と連携した家庭学習の充実
		仙小	●朝学習および家庭学習の計画的な取組 ●学び合いを大切にした「共生的な学習」の推進および外国語の教科化に伴う指導方法の工夫
		箱中	●全員参加の授業づくり ●生徒の良さを認める授業づくり

項目	共有項目	学校名	個性化の方向性
徳 育	★箱根ハートフルプログラム	湯小	●箱根ハートフルプログラムの効果的活用
		森小	●豊かな心を育む掲示物の工夫 ●保護者の「心の教育」への関心と意識高揚を意図した「箱根ハートフルプログラム」の授業公開
		仙小	●箱根ハートフルプログラムの再検討と教材の工夫 ●箱根ハートフルプログラムを生かす「仙小のだいじ」を意識した道徳授業の工夫
		箱中	●生活アンケートの結果分析と関連づけた箱根ハートフルプログラムの実施
	★ほめるアイテム作り	湯小	●児童理解を深めるための児童指導連絡会の充実
		森小	●子供のよさを価値付ける言葉掛けと「ほめる児童指導連絡会」への転換 ●友達のよさに気づき、認め合うことのできる活動の工夫
		仙小	●ほめる学級だより・朝会の工夫と情報共有の場づくり ●友達の努力や成果を認める活動の工夫
		箱中	●「当たり前」「小さな進歩」をほめる等、ほめる原則の徹底
体 育	★体力向上アイテム作り	湯小	●外遊びの活性化（長昼休みの設定・万歩計活用等） ●児童健康委員会主催のスポーツ集会の実施
		森小	●「全校長縄大会」「短縄ギネスに挑戦」の継続実施、縄跳び検定表、ジャンピングボードの活用 ●週2回のロング昼休みの設定
		仙小	●チャレンジカードを活用した縄跳び運動の取組 ●「箱根駅伝に挑戦 芦ノ湖チャレンジ」の計画的な取組の工夫
		箱中	●生徒が主体となった「PET」や「スポーツウィーク」の実施 ●体育の授業のウォーミングアップとしての縄跳び運動の活用

2) —② 小・中学校の特色ある学校づくり

学校名	取り組み内容
湯本小学校	●異学年交流で全校仲良しの学校 ●美術あふれる学校
箱根の森小学校	●歌声響く学校
仙石原小学校	●心を育てる情操教育の推進～「花いっぱいプロジェクトの継続」「仙小ギャラリーの充実」「楽しい音楽朝会の実践」～
箱根中学校	●国際観光地箱根を生かした学校づくり（生きた英語の推進）

【生涯学習課】

1 生涯学習目標

『箱根を知り、箱根を語れる人づくりと輪づくり』

2 箱根教育の具現化

(1) 地域ぐるみ健全育成活動の推進… (箱) (知) (徳)

- ・家庭教育支援として、家庭教育講座の継続実施、定着化を図ります。
- ・青少年健全育成のための地域活動を支援します。
- ・放課後の子どもの居場所づくりのための『放課後子ども教室』を湯本小学校で実施します。

(2) 文化・自然遺産の保護と活用… (箱)

- ・箱根旧街道杉並木保存管理計画策定をはじめ、文化財の保護活動を推進します。
- ・文化遺産啓発のため、冊子の刊行や文化財探訪会を実施します。
- ・文化遺産保護意識の醸成を図り、文化財ボランティアの育成を図ります。

(3) 健康推進・体力向上に資する生涯スポーツの振興… (体)

- ・地域スポーツ活動の推進を図ります。
- ・老若男女誰でもが親しめるニュースポーツの普及に努めます。

(4) 生涯学習施設の機能と運営の充実… (箱) (知) (体)

生涯学習施設は、生涯学習活動支援の中でも、学習の場の提供を行う拠点となる重要な役割を持っています。拠点5施設は、それぞれ次のような「コンセプト」を持ち、25年度教育方針に規定した10年間という期間を見据え（30年度で6年度目）、各施設の運営を展開していきます。

施設名	コンセプト
箱根町社会教育センター等	人と文化の集積処
箱根町立郷土資料館	今と昔を伝える箱根の情報館
石仏群と歴史館	俳句と歴史の里への誘い処
箱根関所・関所資料館	江戸時代の体感処
箱根町総合体育館	健康と体づくりの発信地

*各施設とも、現状で行っている内容及び施設環境を常に見直し、「ただあるべき施設から、独自性のある施設へ」の転換を図っていく必要があります。

生涯学習施設 平成30年度達成目標

- 箱根町社会教育センター等公民館《人と文化の集積処》… (箱) (知)
 - 【年間利用者目標：38,000人】
 - ・HAKONE大学を継続実施します。
 - ・図書サービスの向上を図ります。
 - ・プチ体験講座をはじめ、各種講座を開催します。
- 箱根町立郷土資料館《今と昔を伝える箱根の情報館》… (箱)
 - 【年間利用者目標：10,000人】
 - ・企画展開催やホームページ等を活用し、郷土資料情報の発信を推進します。
 - ・郷土資料館ボランティアを育成します。
 - ・箱根の歴史授業講師派遣等学習支援・サマースクール支援等、学校教育との連携強化を図ります。
- 石仏群と歴史館《俳句と歴史の里への誘い処》… (箱)
 - 【年間利用者目標：12,000人】
 - ・地域協働活動を推進します。
 - ・地域的特色をテーマとした講座イベントを開催します。
- 箱根関所・関所資料館《江戸時代の体感処》… (箱)
 - 【年間利用者目標：350,000人】
 - ・完全復元施設の維持修繕を継続的に実施します。
 - ・ガイドブックやパンフレット、SNSを駆使し、箱根関所、および周辺施設情報の発信に努めるとともに、周辺施設との協働による「箱根“夢”劇場」の定着を図り、地域活性化の拠点施設としての活動を展開します。
 - ・平成28年度に導入したスマートフォンアプリの内容を充実し、周辺観光資源の魅力などのさらなる情報発信に努め、観覧者増員を図ります。
 - ・学校利用プログラムの活用を促進し、教育施設として修学旅行や校外学習などで来訪される学校に対し、現地体験を通じた歴史教育の充実に寄与します。
- 箱根町総合体育館《健康と体づくりの発信地》… (体)
 - ・指定管理者に対し、「公の施設」としての総合体育館の管理・運営について、指導・監督に努めます。
 - ・指定管理者の視点による運営計画を促進し、町民の生涯スポーツの振興と総合体育館の活性化を図ります。